

スポーツナビ



平成28年度スポーツ振興事業助成評価



平成28年度スポーツ振興事業助成評価に係る調査の概要

1 助成事業評価の目的

- (1) 政策動向や国民ニーズを踏まえ実施した助成事業が、「期待した成果を上げているか、その成果が社会にどのような影響を与えたか」を効果測定すること。
- (2) 評価結果を、助成事業の改善に活かすこと。
- (3) 限られた助成財源を有効に配分し、より効果の高い助成事業とすること。

2 対象

平成28年度スポーツ振興事業助成団体(約2,800件)

3 実施方法

調査票をHPに掲載し、助成事業実績報告書の提出と併せて提出を依頼
※一部事業についてはヒアリング実施

4 調査票回収率

100.0%

1. 基本的な評価の考え方 — 各指標値の評価方法

- 各指標値の結果について、2つの評価「増加率等による評価」と「有効回答数に占める増加した事業の割合による評価」を実施します。各評価の評価基準・評価方法は次頁に示します。
- この2つの評価を実施することにより、増加率を測ることで明らかとなる「効果の高低」と、増加した事業の割合で明らかとなる「効果の幅」を測定し、質と量の側面から評価を行います。
- なお、対象事業が少ない一部事業については、上記のほか、団体からの「ヒアリング」も踏まえた、「定性的な評価」を行うこととします。

各指標値の評価

＝ 2つの評価を実施する



1. 基本的な評価の考え方—各事業の評価方法

- 増加率等による評価については、各指標に対する有効回答の平均値を用いて実施します。
- 本評価では、「アウトカム指標」、「総評」は、3段階評価を実施し、「事業主体設定目標」については2段階評価を実施します。（「アウトカム指標」は、対象年度実施事業における直接的な効果を測る指標であるため、3段階評価の対象外とします。）（「助成条件実施事項」は個別事業の評価ではなく、助成事業全体の評価項目とします。）
- なお、「アウトカム指標」評価は、前回の評価で得られた指標値(増加率等)を踏まえた評価とします。

	アウトカム指標(増加率)	アウトカム指標(増加事業割合)	事業主体設定目標	総評
基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 3段階評価を実施する ➢ 昨年度の指標値より「増加している」、「横ばい」、「減少している」の基準で評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 3段階評価を実施する ➢ 昨年度より増加している事業の割合で評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2段階評価を実施する ➢ 当初計画した目標を「達成している」、「達成していない」の基準で評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 3段階評価を実施する ➢ 左記3点の事項の評価について、「A:3点」、「B:2点」、「C:1点」として総計し、指標数で割った値(評価点)により、評価する
「A」評価の定義	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度の指標値より、増加している(増加率*が、110%より大きい) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度より、増加している事業の割合が60%より大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 全ての団体が、各団体で設定した目標を全て達成している(指標値が100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価点が比較的に高い(評価点が、2.35以上3.0以内)
「B」評価の定義	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度の指標値と、横ばいである(増加率*が、90%以上110%以下) <p>※本来の横ばいは、「増加率*=100%」であるが、評価対象範囲を広げるため、100%の±10%を評価対象範囲とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度より、増加している事業の割合が40%以上60%以下 	<p>設定しない (選定の根拠となる当初計画の遵守は団体の責務であり、1団体でも対応できていない場合は、評価に値しないと考えるため)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価点が平均的な値である(評価点が、1.65以上2.35未満)
「C」評価の定義	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度の指標値より、減少している(増加率*が、90%未満) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 昨年度より、増加している事業の割合が40%未満 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 一部の団体が目標を達成していない(指標値が100%未満) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 評価点が比較的に低い(評価点が、1.0以上1.65点未満)

*「増加率」ではなく、「減少率」により評価する場合は、「A:90%未満」、「B:90%以上110%以下」、「C:110%より大きい」とする

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 1/7

■ 事業の評価結果概観は、記載のとおりです。

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
1 Jリーグホームスタジアム等整備事業	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Jリーグホームゲームの開催のみならず国際競技大会、地域の競技大会に活用されていることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、Jリーグの安定開催のために、また、国際競技大会の開催等多くのイベントの開催が可能となる施設の整備に、助成が活用されることが望まれる。
2 国民体育大会冬季大会競技会場整備事業	A (一)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 冬季国体の競技会場として整備された施設が、国体終了後においても、全国的規模の競技会場として利用される予定となっており、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、競技水準の向上及び地域スポーツの振興に、助成が活用されることが期待される。
3 クラブハウス整備事業	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 整備した施設が、総合型クラブの活動拠点として、十分に利用されていることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、総合型クラブの活動拠点となる施設の整備に、助成が活用されることが期待される。
4 グラウンド芝生化事業	A (2.50)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設利用者数やスポーツイベントの開催数などが増加しており、施設利用者の満足度も高い数値を示していることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、地域における身近なスポーツ施設の整備に、助成が活用されることが期待される。
5 スポーツ施設等整備事業	A (2.75)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設利用者数やスポーツイベントの開催数などが増加しており、施設利用者の満足度も高い数値を示していることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、地域における身近なスポーツ施設の整備に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 2/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
6 総合型地域スポーツクラブ創設、創設支援事業	<p style="text-align: center;">A (2.40)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新規会員獲得のためのスポーツイベントの開催、広報活動等が増加した上で、クラブが設立されていることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、総合型地域スポーツクラブの設立ために助成が活用されることが期待される。
7 総合型地域スポーツクラブ自立支援、マネジャー設置支援事業	<p style="text-align: center;">B (2.32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準で推移していることからおり、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 多種目・多世代・多志向のクラブ運営及びクラブの自立支援に、助成が活用されることが期待される。
8 総合型地域スポーツクラブ活動基盤強化、クラブマネジャー設置事業	<p style="text-align: center;">B (1.96)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準で推移しており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 適正且つ安定的な事業運営に、助成金が活用されることが期待される。
9 クラブアドバイザー配置事業	<p style="text-align: center;">B (2.00)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ クラブアドバイザーが指導を行った総合型クラブから肯定的な評価を得ており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 総合型クラブ未設置市町村への普及・啓発等に加え、持続可能なクラブ運営への指導・助言の実施に、助成が活用されることが期待される。
10 スポーツ教室、スポーツ大会等の開催 (地方公共団体)	<p style="text-align: center;">B (2.17)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準で推移しており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より一層の出場者・地域住民の参加者の増加など、スポーツへの参加促進に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 3/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
11 スポーツ指導者の養成・活用 (地方公共団体)	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 要望件数は少ないものの、実施された事業では、指導者の活用(派遣)回数、活用人数ともに増加が見られたことから、助成事業の効果が認められる。 ➤ 引き続き、地域のスポーツ指導者の養成等に、助成が活用されることが期待される。
12 スポーツ情報の提供(地方公共団体)	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 要望件数は少ないものの、実施された事業では、成果物の配布数の増加や、新たなウェブコンテンツの構築により、広く情報が提供されていることから、助成の目的を達成しているといえる。 ➤ 引き続き、地域におけるスポーツ情報の発信等に、助成が活用されることが期待される。
13 大型スポーツ用品の設置	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大型スポーツ施設を設置した施設利用者の増加が見られたことから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、公共スポーツ施設の充実に、助成が活用されることが期待される。
14 国民体育大会冬季大会の競技会開催支援事業	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大会の開催により、冬季スポーツの普及・発展及び県民のスポーツイベントへの参加意識の向上につながったことから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、大会の円滑な開催に助成が活用されることで、競技者育成や地域スポーツの振興に寄与することが期待される。
15 タレント発掘・一貫指導育成事業	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準で推移しており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より多くの、優れた素質を有する競技者の発掘・育成に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 4/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
16 身体・運動能力特性に基づくタレント発掘事業	A (2.50)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ NF・PFへのパスウェイ数の増加が見られることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、地域における優れた素質を有する競技者の発掘に、助成が活用されることが期待される。
17 スポーツ教室、スポーツ大会等の開催 (スポーツ団体)	B (2.25)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準の事業が実施されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より一層の参加者の増加など事業の活性化に助成が活用され、スポーツへの参加促進や競技技術の向上に繋がることを期待される。
18 スポーツ指導者の養成・活用 (スポーツ団体)	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準の事業が実施されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 多様化するニーズに応え、適切な指導が行える指導者の養成・活用の充実に、助成が活用されることが期待される。
19 スポーツ情報の提供(スポーツ団体)	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準の事業が実施されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 団体が有するスポーツ情報が広く一般へ周知されるよう、助成が活用されることが期待される。
20 マイクロバスの設置	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 参加者数、活動日数ともに増加が見られることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、スポーツ活動に参加する者の利便性の向上に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 5/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
21 ドーピング検査事業	<p style="text-align: center;">B (2.00)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 昨年度と同規模の検査が実施されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 国際的な水準を踏まえた検査数の確保など、ドーピングのない、クリーンで公正なスポーツの実現に助成が活用されることが期待される。
22 ドーピング防止情報提供事業	<p style="text-align: center;">A (3.00)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 広報誌やインターネットの活用により、より多くの国内関係者に情報が提供されていることから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、関係者への情報提供に、助成が活用されることが期待される。
23 ドーピング防止啓発活動推進事業	<p style="text-align: center;">B (-)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 助成が、ドーピング防止啓発のための研修会等に活用されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ ドーピングのないクリーンで公正なスポーツの実現に向け、より多くの関係者への啓発活動等に、助成が活用されることが期待される。
24 ドーピング分析機器等整備事業	<p style="text-align: center;">B (-)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 分析手法の実効性について、全て検証されており、ドーピング検査分析を行う環境の整備が実施されていることから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ ドーピングのないクリーンで公正なスポーツの実現に向け、より多くの手法の実効性の確保に、助成が活用されることが期待される。
25 スポーツ仲裁等事業	<p style="text-align: center;">B (-)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 相談、申立に対し、紛争解決を図るため必要な助言等が実施されており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ スポーツに関する紛争の解決に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 6/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
26 若手スポーツ指導者長期在外研修	<p style="text-align: center;">B (2.00)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 派遣者が研修帰国後に強化スタッフとして従事しており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より一層、将来のスポーツ界を担う人材の育成に、助成が活用されることが期待される。
27 国際交流推進スタッフ育成事業	<p style="text-align: center;">A (2.50)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 派遣者が研修で得られた知見やIFとの人脈を活用し、諸外国との連絡・調整に従事しており、助成の効果が認められる。 ➤ 本事業は、国際機関と安定した関係を築くために重要な事業であることから、多くのスタッフの育成に、助成が活用されることが期待される。
28 スポーツ団体ガバナンス強化事業	<p style="text-align: center;">B (一)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門家を活用し、ガバナンス強化に係る自発的な取組みを実施していることから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ スポーツ団体のガバナンス強化は、今後も重点的に対応すべき課題のひとつであるため、助成が組織体制強化の取組に活用されることが期待される。
29 国際スポーツ会議開催事業	<p style="text-align: center;">B (一)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 諸外国の関係機関との十分な連携のうえで、会議が開催されていたことから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 国際会議の円滑な開催に、助成が活用され、国際的な活動の推進や、諸外国とのネットワーク構築に寄与することが期待される。
30 国際競技大会開催事業	<p style="text-align: center;">A (3.00)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に増加傾向であり、大会運営も円滑に行われていたことから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、国際大会の円滑な開催に、助成が活用されることが期待される。

2-1. スポーツ振興くじ助成 事業評価 7/7

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
31 国際競技大会開催準備事業	— (-)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 対象事業なし。
32 東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催助成	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大会開催準備のため、組織体制の強化や広報活動の実施等適正な運営がなされており、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、大会の成功に向け、運営体制の構築、国民の関心を高める取り組みに、助成が活用されることが期待される。
33 ラグビーワールドカップ2019開催助成	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大会開催準備のため、組織体制の強化や広報活動の実施等適正な運営がなされており、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、大会の成功に向け、運営体制の構築、国民の関心を高める取り組みに、助成が活用されることが期待される。
34 被災地の総合型地域スポーツクラブ支援事業	B (1.96)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 平成24年度から平成28年度を通じて、一定水準の事業が実施され、助成事業の目的を達成したといえる。 ➤ 今後は、通常の各事業への円滑な移行に配慮し、引き続き、クラブの財政的自立に必要な支援を行うことが望まれる。
35 スポーツによる被災地の子どもたちの心のケア活動等事業	A (3.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自治体等関係者から肯定的な評価を得ており、子どもの満足度も高いことから、助成の効果が認められる。 ➤ 引き続き、被災地の子どもたちの心のケアに、助成が活用されることが期待される。

2-2. スポーツ振興基金助成 事業評価

- 事業の評価結果概観は、記載のとおりです。

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
1 スポーツ団体選手強化活動助成	B (一)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 競技水準の向上を図ることを目的とした計画的かつ継続的な選手強化活動に助成が活用されていることから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より多くの団体で成果が上がるよう、強化活動の充実に助成が活用されることが期待される。 <p>※JOC加盟競技団体が行う選手強化活動については、平成27年度より競技力向上事業に一元化</p>
2 スポーツ団体大会開催助成(競技力向上)	B (2.25)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 一定程度のトップレベルの競技者が参加した上で大会が開催され、観戦者数の増加が見られたことから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より多くのトップ選手の参加など大会の活性化、競技水準の向上に、助成が活用されることが期待される。
3 スポーツ団体大会開催助成(普及)	B (1.75)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全般的に昨年度と同水準で推移しており、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 大会の活性化、競技の認知度向上に、助成が活用されることで、競技人口の増加などスポーツの振興に寄与することが期待される。
4 アスリート助成	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ オリンピックアスリート、パラリンピックアスリート(平成28年度より開始)ともに、競技活動に専念した選手生活の継続に助成が活用されており、かつ、オリンピック/パラリンピック・世界選手権等の国際大会の入賞者のうち、半数以上を助成金受給者が占めていることから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ 助成が、オリンピック競技だけでなく、パラリンピック競技においても競技水準の向上に寄与することが期待される。
5 選手・指導者研さん活動助成	B (2.00)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 活動報告において、受給者が、経験、知識を得ていることが確認できたことから、助成事業の目的を達成しているといえる。 ➤ より多くの競技者の競技技術の向上やスポーツキャリア形成に、助成が活用されることが期待される。

2-3. 競技強化支援事業助成 事業評価

- 事業の評価結果概観は、記載のとおりです。

助成事業名	評価点	総評及び次回への提言
1 スポーツ団体トップリーグ運営助成	A (2.38)	<ul style="list-style-type: none">➤ 観客数やイベント等の参加者数が増加していることから、助成事業の目的を達成しているといえる。➤ トップリーグの安定した運営のため、より一層の自己財源の確保に向けた取組や自己財源確保のための方策に関する好事例の共有などに助成が活用されることで、リーグ運営基盤の整備に寄与することが期待される。

3. 評価総論

評価総論	<ul style="list-style-type: none">➤ 各事業の評価点において、C評価はないことから、助成事業の目的は達成している。➤ 2018年ピョンチャン大会や、2020年東京大会に向けて、引き続き、国民のスポーツへの関心が高まっていくことが想定されることから、第2期スポーツ基本計画や、助成団体のニーズを踏まえた、効果的な助成の実施が期待される。
------	---